



- 1位『異修羅』珪素/著 KADOKAWA  
 2位『本好きの下剋上』香月 美夜/著 TOブックス  
 3位『Unnamed Memory』古宮 九時/著 KADOKAWA  
 4位『リビルドワールド』ナフセ/著 KADOKAWA  
 5位『Babel』古宮 九時/著 KADOKAWA  
 10位『魔女の旅々』白石 定規/著 SBクリエイティブ  
 11位『オーバーロード』丸山 くがね/著 エンターブレイン  
 12位『転生したらスライムだった件』伏瀬/著 マイクロマガジン社  
 13位『どうも、好きな人に惚れ薬を依頼された魔女です。』六つ花 えいこ/著 双葉社

『このライトノベルがすごい！2021』（宝島社）で単行本・ノベルズ部門BEST15にランクインした作品から市内の市立図書館にある本を紹介する☆ Web発やアニメ化した作品などが盛りだくさん。異世界転生・ファンタジーが強い人気！



## 図書館スタッフが10代だったころ...④

「誰か死なな(ミステリー作家と呼ばれる)この多い伊坂幸太郎さんですが、この小説、ここからこの人が死にます。小説という形式を省略されがちな死の瞬間を、淡々と、しかしどこが軽快に語り、読後には爽快感が残りまします。それが中学に上がったばかりの頃の私には、あんなにも衝撃的で、小説ってこんなにも面白いのか、と驚いたのを覚えています。今でも心に取って置きたい作品の一つです。」

「たまたま「幸」の文字が目印だった。表紙には静寂を切り取ったような天道の写真がめかされている。中央には田子のグラスホッパーとあり、上部には伊坂「幸太郎」の名前が添えられている。本を開くと登場人物の押印が目に入り、ページをめくれば殺して屋たちの物語が展開されていく。」

伊坂さんの作品の中でも「グラスホッパー」が印象的だ。『ハX』などは「殺し屋シリーズ」と呼ばれています。併せて読むことで、さらに作品の世界を味わえますのでぜひお手に取ってみてください。

(茶々)

『グラスホッパー』  
伊坂 幸太郎/著  
角川書店

編集後記 ティーンズレター第47号はいかがでしたか？次回は夏ごろにお会いしましょう♪  
 2020年は、学生の頃読んでいた『キノの旅』が発売から20周年でハードカバー版のベストエピソード集が出たり、『フォーチュン・クエスト』が30周年で無事完結、『涼宮ハルヒ』が9年ぶりの新刊！と感慨深い1年でした。(ココ)

少しずつ、暖かくなってきましたね。春は綺麗な桜を眺めつつ、のんびりカフェ巡りするのが好きです。今はまだ行けそうにないので、行きたいお店リストだけが更新されています。(茶々)

2021年3月発行

# Teens Letter

習志野市立中央図書館  
 習志野市本大久保 3-8-19  
 TEL:047-475-3213  
 ホームページ  
<https://www.narashino-lib.jp>

## ティーンズレター VOL.47

# みなぎる。フワフワ

# ☆2021年もヨロシク!

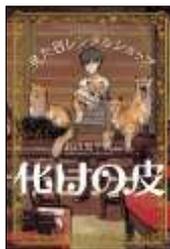
# TEENS CORNER BOOK NABI

## これを読め

3月恒例「これを読め♡」  
2020年度にティーンズコーナーに  
仲間入りした本の中から担当者  
イチオシの本をご紹介します！

『見た目レンタルショップ 化けの皮』 石川 宏千花／著 小学館

「別人になってみたい方、〈見た目〉をレンタルしてみませんか」  
祖父から特別な力を受け継いだ大学1年生の吾妻庵路は、同じく祖父から受け継いだ「よろずレンタルショップ化けの皮」の店長。店員はイケメン呉波（くれは）と砂羽哉（さわか）、美しすぎる双子の兄妹、真間と帆ノ香。なんとこの4人の正体は化け狐！レンタルできるのは彼らが化けた人間の姿。さて、今日のお客様はどんな姿をお求めでしょうか？



『作家逃亡飯』 カルロ・ゼン／ほか著 星海社

×切と担当編集者からいかにして逃げ、旨い飯を食うか。カルロ・ゼン、蟬川夏哉を中心に『Re:ゼロから始める異世界生活』『この素晴らしい世界に祝福を！』『薬屋のひとりごと』などの作家をゲストに迎え、あわせて10人によるはっちゃけた1冊。字体も作風も様々。フィクションあり、ノンフィクションあり、読み応え充分。今日も×切破って飯が旨い！



『日本SFの臨界点 怪奇篇』『日本SFの臨界点 恋愛篇』 伴名 練／編 早川書房

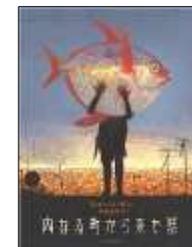
「2010年代、世界で最もSFを愛した作家」と称された伴名練が贈る傑作SFアンソロジー！

現在では絶版になっていて入手が難しい津原泰水の「ちまみれ家族」や円城塔の「ムーンシャイン」など、知る人ぞ知る埋もれた名作をテーマごと収録しています。まだ見ぬSFの世界をのぞいてみませんか？



『内なる町から来た話』 ショーン・タン／著 河出書房新社

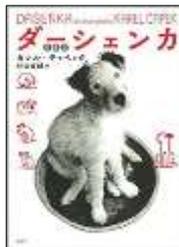
オーストラリアの絵本作家・ショーン・タン。彼の描く動物たちはなぜか都会に住んでいて、とっても不思議な生活をしています。  
高層ビルの87階に住むワニ、  
空港のロビーで獲物をついばむワシ、  
弁護士と共に裁判所の階段を上がるクマ……。  
心惹かれる衝撃的な一文から始まる奇妙で幻想的な世界をお楽しみください。



『ダーシェンカ』 カレル・チャペック／著 青土社

ワイヤーヘアード・テリアのダーシェンカはいたずらが大好き！じゅうたんの端をかじり尽くしてみたり、干してある洗濯物を引っばってみたり、温室の窓を壊してみたり、泥だらけになるまで穴を掘ってみたり……。毎日元気に遊び回ります。

チェコの国民的作家カレル・チャペックが描く、ダーシェンカとの愛らしくも騒がしい日々のお話。1933年初出版が新たな訳、装丁でお目見えです。



『実験で楽しむ宮沢賢治「銀河鉄道の夜」』 四ヶ浦 弘／著 金沢・金の科学館

『宮沢賢治の地学読本』 宮沢 賢治／作 柴山 元彦／編著 創元社

宮沢賢治は学校の先生であり、童話作家でもあります。もし宮沢賢治が先生として自分の作品を解説するとしたら…？そんな想像をしつつ、現代の先生がチャレンジした『銀河鉄道の夜』に出てくる言葉の実験での再現や、地学が関わる物語の解説を見てみませんか？より深く、物語を理解することができますよ。（ちなみに2021年は宮沢賢治生誕125周年です！）



『ダーウィン「種の起源」を漫画で読む』 チャールズ・ダーウィン／文 いそっぷ社  
(マイケル・ケラー／編・文 ニコル・レージャー・フラー／絵)

1936年10月、ダーウィン（27歳）は約5年間におよぶ世界各国の測量・調査のための航海から無事故郷イングランドへ帰り着きました。そして始まるダーウィンの「種の起源」を出版するまでの思考の日々。ダーウィンの語り口調で進むこの本はまるで日記を読んでいるよう。渋いトーンで描かれるリアリティーのあるフルカラーイラストで、話の世界にぐっと引き込まれます。



『図解身近にあふれる「物理」が3時間でわかる本』

左巻 健男／編著 明日香出版社

3時間でわかるって言っても、難しい話ばかりなんじゃないの？と思ったそのあなた！ご安心を！ハイヒールに踏まれるのはソウに踏まれるより危険？息を吹きかける時の「ハー」と「フー」で温度が違うのはなぜ？などなど、思わず笑ってしまう身近な疑問を文系の人にもわかりやすく解説します。思わず誰かに話したくなる、科学系小ネタが満載です！

